



CASSIOPEIA NKANI

Vol. 31 May 2024

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



2024年5月21日に開催された第3回合同調整委員会で、保健省技術サービス担当事務次官のケネディ・リシンピ氏と、ルサカ郡保健局長のマセカ氏が、法月チーフアドバイザーへ送別の花束を渡している様子

第3回 合同調整委員会

ザンビア保健省、ルサカ州保健局、JICAカシオペア・プロジェクト共同による薬局在庫管理強化支援

手術部位感染（SSI）サーベイランス・ガイドラインと標準作業手順書が重要な局面を迎える



第3回合同調整委員会 法月チーフアドバイザーとの別れを惜しむ



High table delegates for the 3rd Joint Coordination Committee meeting

今年、4年目を迎えるカシオペア・プロジェクトは、3回目の合同調整委員会（JCC）を、5月21日にルサカ市で開催しました。プロジェクトの責任者である保健省技術サービス担当事務次官のケネディ・リシンピ氏が座長を務め、日本大使館、JICAザンビア事務所、保健省、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、プロジェクトが対象とする5つの一次レベル病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ）の関係者が出席しました。リシンピ氏は、「本プロジェクトが4年目も継続していること」を評価し、「JICAの支援が更に継続するよう期待している」と述べました。また、昨年から、多くのザンビア国民の命を奪ったコレラの大流行に対して、「日本政府が提供してくれた技術協力と支援物質にも感謝」を述べました。

委員会は、プロジェクト計画（PDM）の修正、特に対象病院が総合病院から一次レベル病院に格下げになった影響、報告システムの変更、必須医薬品・医療用品（EMMS）と薬局の在庫管理等を議論し、関係者が合意する場でもあり、現在進行中の手術部位感染（SSI）サーベイランス・ガイドラインとその標準作業手順を作成するプロセスの進捗状況も共有されました。プロジェク

トの成果発表では、病院運営管理、感染予防管理（IPC）、必須医薬品・材料（EMMS）、医療機器管理の各分野で、他の医療施設より優れた成果を上げた施設の特徴について参加者から質問がありました。

JICAザンビア事務所の館山丈太郎所長は、日本とザンビアの友好関係を称え、「対象5病院がマネジメント能力の開発を通じて、多大な貢献をしている」と述べました。さらに、プロジェクト活動では、「病院管理者が訪日研修で日本の病院を訪れ、好事例を学び、それらをザンビアの状況に合わせて応用していること」にも言及しました。

最後に、リシンピ氏から、カシオペア・プロジェクトの開始からチーフアドバイザーを務めてきた法月氏に送別の品が贈られました。リシンピ氏は、「コレラの大量発生時に、日本が技術支援を提供してくれたこと」に感謝の言葉を述べました。また、「コレラ対策における法月チーフの多大なる尽力を賞賛し、法月チーフの今後の活躍を祈願する」と述べました。



第3回合同調整委員会で、法月チーフアドバイザーが参加者にプレゼンテーションを行う様子



保健省技術サービス事務次官のケネディ・リシンピ氏が、第3回合同調整委員会でスピーチを行う様子



プロジェクト専門家とスタッフの集合写真



上：ニヤンガ専門家が会議中に意見を述べている様子

下：会議で歓迎の挨拶をする、州保健局長のシムルヤマナ・チョンガ氏



ザンビア保健省、ルサカ州保健局、JICAカシオペア・プロジェクト 共同による薬局在庫管理強化支援

プロジェクトの対象5病院の薬剤師を中心とした医療従事者たちが、5月2日にルサカ市のタージ・パモジ・ホテルに集まりました。このワークショップに集まった参加者達は、5病院のグッドプラクティス等の経験を共有し、医薬品の適正使用、医薬品・診療委員会(MTC)の会議を強化する方法、標準化された月報の草案、注文履行率(OFR)と処方箋充足率(PFR)の導入方法等を議論しました。5病院の他にも、首都ルサカに位置する国立病院である大学教育病院(UTH)、バウレニ病院、チェルストン病院などの関係者が出席していました。

座長は、ルサカ州保健局のソフィア・ムシスカ氏が務めました。彼女は、「JICAが5病院の建設から、カシオペア・プロジェクトによる病院のマネジメント能力の強化まで、ザンビアを継続して支援してくれていること」を高く評価しました。またムシスカ氏は、「優れた実践を持続的に促すシステムが医療施設

のサービス提供にとって重要」と強調しました。

保健省の主任薬剤師であるチボシャ・カンダンデュ氏は、医薬品適正使用の促進について発表を行いました。特に、発表の中で「ザンビアでは、不適切な処方・調剤・医薬品売買といった医薬品の不適正使用により、資金が流出している」といった課題も指摘されました。また、チボシャ氏は、医薬品・診療委員会(MTC)の重要性についても触れ、MTCが医療費削減、医薬品の適正利用や適正管理の促進、医療従事者に対する医薬品や治療に関する助言、といった重要な役割を持っていることから、「同委員会が、院内のすべての関係者をつなぐ組織的なコミュニケーション手段として機能するようにさらなる強化が行われること」を求めました。

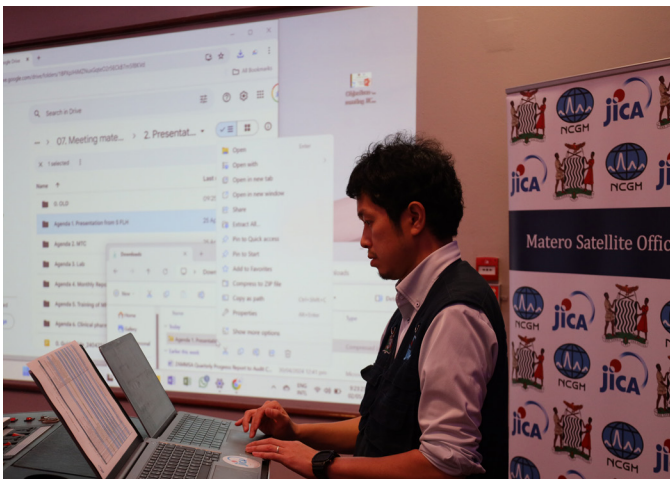
このワークショップで議論されたテーマは、医療施設における医薬品在庫不足、

薬剤師が医薬品処方設計に参加する重要性、調剤時に患者情報や診断情報が迅速に利用できるような処方医に対して、電子健康記録システム(SmartCare)の利用を促すことなど多岐にわたりました。参加者は、新しい報告システムと病棟で使用する在庫管理表の使用推進にも合意しました。

ワークショップの閉会に際して、法月チーフは、必須医薬品・医療用品(EMMS)の在庫管理業務の一助とすべく、対象病院の薬局担当者にノートパソコンを一台ずつ手渡しました。また同チーフは、プロジェクトの塩田専門家が、医療施設とともに頑張っていることにねぎらいの言葉をかけ、「薬剤師たちの更なる頑張りに期待する」と述べました。

左: 2024年5月2日に開催されたワークショップ中の塩田専門家の様子

右: ワークショップで、法月チーフアドバイザーからノートパソコンを受け取る、イルンガ・ムトワレ氏とユニス・ナンベエ氏



手術部位感染 (SSI) サーベイランス・ガイドラインと標準作業手順書が重要な局面を迎える

手術部位感染 (SSI) サーベイランス・ガイドラインと標準作業手順書 (SOP) が標準化の局面を迎えました。同文書は、今後保健省に採用されることが期待されており、その第1版を編集する会議が5月23日に開催されました。参加者は、保健省、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、プロジェクトの対象5病院の関係者でした。

法月チーフは、「医療施設にガイドラインと標準作業手順書 (SOP) があることで、手術部位感染症 (SSI) のデータが可視化され、問題とその要因を特定するのに役立つ」と述べました。カニャマ一次レベル病院は2023年3月からSSIサーベイランスに取り組む先駆的な医療施設です。その取り組みが広がり、現在は、他のプロジェクト対象病院でもSSIサーベイランスに取り組んでいます。

会議では、用語の定義を明確にし、説明を加えること、SSI発生率の計算方法、施設レベル、郡レベル、州レベルでの報告システムのあり方が議論されました。各報告レベルの事務局を誰が担当するか、外来患者と入院患者からどのようにSSIのデータを集めるか、が話し合われました。例えば、報告業務は医療施設と郡・州保健局の2つのレベルで行われることが合意されました。医療施設では、月の10日目までに病院情報担当者 (HIO) が発生率を報告し、検査室が各施設のSSIサーベイランスグループに原因微生物の割合を報告します。次いで、施設内で結果を話し合った後、15日目までに、感染予防管理 (IPC) 担当者が、保健省、州保健局、郡保健局、各病院の代表者を含むSSIサーベイランス・コンソーシアムに、発生率と原因微生物の割合を報告します。郡保

健局と州保健局は、各施設が報告の即時性と完全性の基準を満たしているかを評価します。さらに、郡保健局と州保健局の感染予防管理 (IPC) 担当が各病院から報告されたデータを集計し、平均値を算出し、25日目までにSSIサーベイランス・コンソーシアムのSNSに結果を報告し、それに対してフィードバックします。結果はこのコンソーシアムで評価され、州保健局と郡保健局の技術会議等で議論されます。

ザンビアにはSSIサーベイランスの標準がありません。そのため、この会議で編集されたSSIサーベイランスのガイドラインと標準作業手順 (SOP) は、今後保健省へ提出され、国レベルで採用されることが期待されています。これらの文書をザンビア国内の全ての医療施設で使われることになるでしょう。



ルサカ州保健局のソフィア・ムシスカ氏が、2024年5月22日に開催された手術部位感染 (SSI) ワークショップで挨拶を行う様子



ワークショップで参加者が発言する様子

ルサカ州保健局、感染予防管理の国家戦略計画とガイドラインの草案に政策提言を行う

ルサカ州保健局の主任環境保健技官であるカセル・マブチ氏は、カシオペア・プロジェクトの村井チーフとともに、感染予防管理の国家戦略計画とガイドラインのドラフティング会議に出席しました。

この会議は、保健省が主催し、ザンビア感染症研究センター (CIDRZ) が後援し、5月27日から31

日にカブウェで開催されました。

マブチ氏は、「感染予防管理 (IPC) の効果的な導入には、病院ガバナンスの関与、特にシニアマネジメントの参加が不可欠であること」を提案しました。この提案は、プロジェクトの対象5病院で、病院ガバナンスの関与がIPC活動の活性化をもたらした経験に基づくもの

でした。保健省は、2024年7月を目処に同文書を完成させることを目指しており、現在、草案の校正と最終化の作業を進めています。



写真1:ルサカ州保健局のキャセル・マブチ氏と、ザンビアIPC戦略計画/ガイドライン会議 (カブウェにて) に参加するプロジェクトの村井チーフアドバイザー



写真2: ザンビア国立IPC戦略計画およびガイドライン会議でのキャセル氏の様子

写真3: カブウェで開催されたザンビアIPC戦略計画/ガイドライン会議の参加者による集合写真



PHOTO FOCUS



JCCにて、郡保健局長マセカ氏、州保健局長チョンガ氏、保健省事務次官のリシンビ氏、法月チーフアドバイザーとの集合写真



薬剤管理ワークショップにて、参加者の集合写真



州保健局のムシスカ氏が、SSIガイドラインワークショップで、法月チーフアドバイザーに送別の贈り物を贈る様子



JCCでの館山JICA事務所長、森二等書記官、村井チーフアドバイザーの様子



KCCP参加者の集合写真



法月チーフアドバイザー（旧）と村井チーフアドバイザー（新）



第3回JCCの全体集合写真

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 村井 真介

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)